

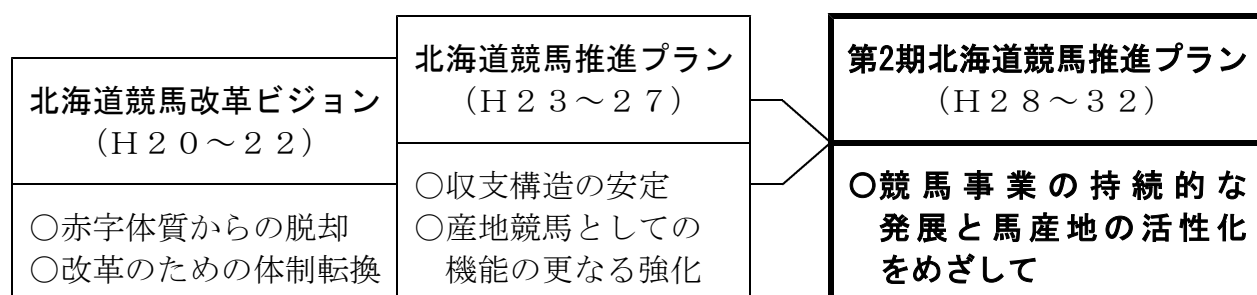
第2期「北海道競馬推進プラン」の概要

〔平成28年3月
北海道〕

1 策定の趣旨

- ホッカイドウ競馬は、これまでの様々な改革により平成25年度以降黒字に転換するなど経営体質が改善しつつあるが、道内発売の減少や出走馬の確保、施設等の老朽化など課題が山積。
- 一方で、地域経済への寄与や馬産地を支える大きな役割を果たしていることから、様々な課題を解決しながら、今後とも事業を安定して継続していくことが必要。
- 今回のプランは、将来にわたる黒字経営の継続など競馬事業の持続的な発展を通じて、馬産地の活性化に資する「5か年の中期的な計画」として策定するもの。

■ 既存計画と次期計画の位置付け



2 ホッカイドウ競馬の現状と主な課題

顧客	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に競馬場等の入場者数が減少傾向にある中、27年度は前年並みを確保 ・客層は男性8割、50歳代以上が6割で、高齢者の男性が主体であり、ファンの確保が重要
番組	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内調教用坂路(H24)を活用した強い馬づくりを推進するとともに、内回り走路(H27)の活用などにより特色ある多様な番組編成を実現 ・一方で、軽種馬生産頭数や馬主が年々減少する中、2歳馬の転きゅうにより特に春先の3歳馬の不足、出走馬確保が課題
発売	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ場外のリニューアルやJRAとの相互発売(H24)などにより、5年連続で発売が拡大するとともに、25年度以降黒字化し収益構造が改善 ・しかしながら、ネット発売のウエイトが増加する一方、道内発売のウエイトが低下。発売環境は今後の消費税増税や景気動向など不透明 ・さらに、映像や情報に係る顧客ニーズが多様化、高度化
施設 ・ 経営	<ul style="list-style-type: none"> ・門別競馬場をナイター化(H21)し、北海道軽種馬振興公社へ開催を委託するなどにより業務を集約 ・一方、施設等の老朽化が進行する中、投資を制限してきた施設・設備の更新の遅れ、特に映像のHD化は喫緊の課題

3 基本的な考え方等

(1) 基本的な考え方

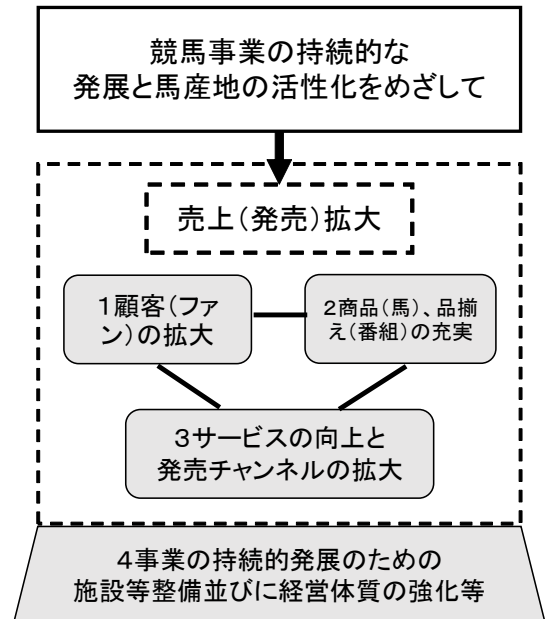
単年度収支の黒字確保を基本として、競馬事業の持続的な発展と馬産地の活性化をめざして

〔基本的な
考え方〕

(2) 取組の柱

- ① 顧客（ファン）の拡大
- ② 商品（馬）と品揃え（番組）の充実
- ③ サービスの向上と
発売チャンネルの拡大
- ④ 事業の持続的な発展のための
施設等整備と経営体質の強化等

〔取組
の柱〕



4 取組の方向性

(1) 顧客（ファン）の拡大

- ① HD化（高精細化「High Definition」）に伴う高画質な映像の提供（臨場感に溢れ視認性の高い映像を提供）
- ② 新たな顧客（若者や女性等）を意識した取組の推進（門別競馬場等を活用した観光）
- ③ J R Aファンの顧客の囲い込み（土日のJ R Aファンを平日に来場促進）
- ④ 競馬+アルファの創造（イベントや飲食ブースの充実など馬券購入以外の魅力付加）

(2) 商品（馬）と品揃え（番組）の充実

- ① 馬のいきゅう促進と馬主の確保・拡大
- ② 屋内調教用坂路を活用した強い馬づくりの推進
- ③ 競馬界全体の盛り上がりへ資する番組体系の再編（中央と地方の交流戦の充実）
- ④ 魅力ある番組の追求（内回りコースを最大限活用し、2歳馬戦や牝馬戦など、ホッカイドウ競馬の特色を活かした番組編成を実施）

(3) サービスの向上と発売チャンネルの拡大

- ① HD化に伴う高画質な映像の提供（再掲）
- ② 顧客ニーズを捉えた情報提供の充実（門別競馬場や場外発売所、ネットにおける競走関連情報「ホッカイドウ競馬出身馬情報等」の充実）
- ③ あらゆる機会を捉えた発売チャンネルの拡大（A i b a札幌駅前の早期再開、道外やネット発売等における発売機会の一層の拡大）

(4) 事業の持続的な発展のための施設等整備並びに経営体質強化等

- ① プラン期間内における施設・設備の計画的な整備
- ② 経営体質強化に向けた取組の推進（経費節減等による効率的な運営）
- ③ 門別競馬場など競馬運営の基幹施設に係るあり方などの検討